

タンザニアでの教員経験を通して

～ 青年海外協力隊の活動より～

谷 昌亮

(14-1, タンザニア, 理数科教師, 尼崎市立尼崎産業高等学校)

1 ポレポレなタンザニア

見出しの「ポレポレ」はスワヒリ語で「ボチボチ」の意味。日本語と何か共通するところがあるようで、学校への通信のタイトルとしていました。

さて、私が赴任したタンザニア国を少し紹介させていただきます。映画ライオンキングの舞台と言われているセレンゲティ国立公園等の自然と動物が共存している所が多く残され、アフリカ最高峰キリマンジャロ山が高くそびえています。また青いさんご礁の海を持つインド洋の島々は、奴隷貿易で栄えた面影を今もなお残しています。このように観光資源としては豊富なタンザニアですが、当然いろいろと困難な問題を抱えています。重責務最貧国というレッテルを国際社会からはられているタンザニアは、GNPが280ドル、平均寿命40歳強、乳幼児死亡率は日本の30倍、HIV感染率は2割程度とされています。コンゴやソマリアに代表されるタンザニアの周辺国はこれに内戦や飢餓があることを考えると、タンザニアは平和で、農作物が豊富な分、食べていけるということで、人々はたいへん陽気で親切です。いろいろと困難な問題はありますが、「Hakuna matata」「問題ないよ!」と気軽に考えていける国民性には尊敬の念さえ感じていました。

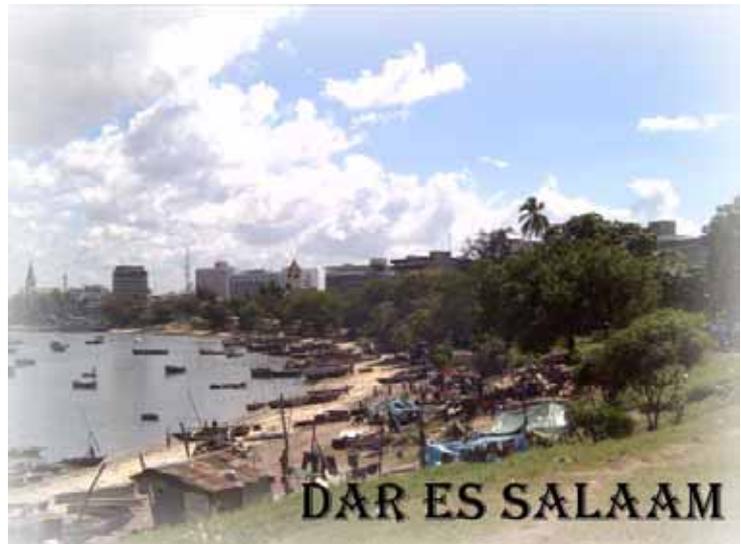


写真1 首都ダルエスサラームの風景

2 現地での活動を通して

(1) 理数科教員として

私は理数科教員として首都近郊の歴史ある Pugu Secondary School に赴任しました。実はこの学校、タンザニアでも一番有名な学校と言ってよく、初代大統領が勤務していた学校であり、現大統領の母校でもあります。Advance-level校(日本の高校程度)は原則全寮制であり、国家試験の点数と希望とを考慮して全国にある公立校(160校程度)に生徒を振り分けます。この作業を各校長が1ヶ所へ集合し、1ヶ月近くかけてするそうです。このA-level

校の問題というと第一に教員不足です。A-level 校を担当する教員は大卒以上というのが条件ですが、これは相当な高学歴ということになります。できればもっと待遇の良い職場、職種へと変わりたい希望をいつも持っています。まだ Pugu は首都近郊でもあり教員達も希望して勤務するはずですが、数学、物理で慢性的な教員不足でした。私が赴任した時は Form5 を担当する物理の教員はゼロで、当初より 4 クラス約 200 人を担当しました。また A-level には教科書というものはありません。シラバスに記載されている参考テキスト等を参考にしながら、学習を進めていくというのが生徒の標準的なやり方です。私が教えたクラスでは、約 8 割の生徒はテキストと呼べるものを持っていませんでした。またテキストを持っていて、それを参考に学習を進めている生徒でも、その参考書はシラバス通りの順番には並んでいませんし、すべてを網羅している訳でもありませんので、個人的に学習するには非常に困難を要します。私自身、自分のレッスンノートを作成するに当たり、5 冊の参考書を購入し、一番分かり易いものはどれかを調べながら、シラバスに沿って作成しました。ある程度内容を理解している私ですら、骨の折れる作業なのですから、全く内容を理解していない生徒にとって、それを自ら行うことは困難です。また国家試験の得点がすべてという現実があり、理論よりも問題の解法という予備校形式の授業を求める生徒たちに答えるためにテキストと問題集を作成しました。このテキストの作成にあたり工夫した点を紹介します。

- ・シラバスをより意識しながらできるように、各トピックの始めにシラバスの目標を記載した。
- ・項目毎に出来るだけ Exercise を解答付きで記載した。
- ・トピック毎に 10 問程度の練習問題を記載した。
- ・トピック毎に N.E.の問題を示し、解答例を記載した。
- ・トピック毎に過去 6 年間の N.E.を分類し、全部を記載した。
- ・すべての練習問題、N.E.に詳細な解答を記載した。

学校にはこれを数冊製本、寄贈し大変喜んで頂けました。唯一の目に見える成果かと思えます

(2) 生徒の評価

最後の授業の時に行った生徒へのアンケートの集計結果を紹介します。私の英語の能力についてと、主に日本人教師は生徒達にどう映っていたかをアンケートしました。特にコメントは付けませんが、前述したテキストに対する評価が高いのは非常に嬉しい限りです。ちょっと英語が不正確なことはありますが、意を汲み取っていただければと思います。

(Q1)Could you understand my English speaking?

all understanding [50%] almost[34%] sometimes[16%] seldom[0] never[0]

(Q2)Do you think any difference between my lesson and Tanzanian teacher's one?

Yes[51%] sometimes[34%] No[15%]

If you answer "yes", please write any different point.

(Note: T.T. means Tanzanian Teacher and J.T. means Japanese Teacher)

/Your explanation bases on how to apply physics in the for example technology but Tanzanian teachers teaches how to answer questions of NECTA and tricks to pass physics and not how is it able to the normal life.

/Language and you make things more summary.

/J.T. are more advanced on teaching especially on how to make the student to understand more.

/Your lesson you use more practical examples and you want the student to set ideas how to answer the questions.

/T.T. because they are Tanzanian. They have enough experience about Tanzania teaching example, they know much to concentrated during teaching but you, you are just directed by syllabus and your experience is not the same as them but you tried a level best.

/You have the spirit of being a teacher like some few T.T.

(Q3)Did my text book help your study?

Yes[98%] sometimes[2%] never[0%]

(Q4)Did Calculations help your study?

Yes[98%] sometimes[2%] never[0%]

(Q5)If there are enough teachers in Tanzania, what do you think about Japanese teacher?

Need[83%] Not to need[17%]

Please write your comment about this question, if you have.

[Need] /We learn their attitudes, ideas and life experiences which are important to us.

/This is to bring relationship to Tanzanian and Japanese and also help to learn more things concern Japanese.

/Giving us a different ideal from Japanese and it is important for developing man.

/Presence of J.T has greater influence since we share ideas and ideology, this is more important in improving students ability.

/We need J.T. but not many. The T.T. would satisfy our aims. We need some teachers from Japan because it is better to change the teachers from various places because they have different techniques of teaching.

[Not to need]

/T.T knows how education is difficult in our county. But J.T. does not aware of this, they make things easy.

/T.T will fail to get employment since there are J.T. But if T.T have got no enough teacher we invite many J.T. to come and teach our students.

(Q6)Have you known something about Japan and Japanese though my working period?

a lot of[54%] something[42%] nothing[4%]

Please write something what you have known about this, if you have.

/Sense of responsibility, keeping time, being charming to student if I will be a teacher.

/I have known that keep time and usually sacrifice for the benefit of others.

/They are hard worker and kindly.

/Culture and language and Hiroshima destruction etc.

/To keep the promise and to take care and to follow timetable and to fill full the mission at the time required.



写真2 授業を教えていた生徒たち

(3) 英語と母国語の問題

英語と母国語

タンザニア国における中等教育は概ね英語で行われます。日本で言うと中学校へ入って英語の勉強が始まり、それと同時に他の教科の勉強を英語で行うというものです。特に理数科の教科はそれ自体が難解なものであるにも関わらず、その上、生徒達には英語の負担もかかり、2年生の終わりにある国家試験でも特に数学の不合格者数が際立って多く、問題となっています。このことを教員や行政の担当官と話したのですが、やはり一番の問題は、「スワヒリ語の教材がないこと」、「英語は公用語で国際語である」というのが決まった答えです。1番目の問題は大学を始め、その気になればそんな難しいことでは無いという事を返答するのですが、なかなかかみ合った議論にはなりません。私がなぜこの議論がかみ合わないかを考えるとき、この国ではまだまだ中等教育は、ある一部の優秀な子供達のためのものであって、等しく機会が与えられ、この国の底辺の底上げを担うという考えかたでは無いのだろうと思います。世界からのサポートもあり、2年ほど前から小学校が無償、全入となりましたが、その子達が数年後中学校に入学を希望するとき、これらの問題の答えが迫られると思われる。また英語は国際語という意見は、全く異論の無いところですが、ただこの国のスワヒリ語は、英語を話すことなく2年間過ごす隊員もいる程、国の隅々まで行渡っています。これについては日本では当たり前のことなのですが、特にアフリカにおいては、もともと部族語

があり、そこに英語、フランス語やポルトガル語等の占領言語が公用語として使われているケースが多くあります。他のスワヒリ語を使うケニア、ウガンダにおいても事情は違い、ケニアは部族間の対立の根が深く、今なお、英語、スワヒリ語、そしてそれぞれの部族語が混在しているとのこと。周りの国々から訪れる隊員達が言語について口を揃えて言うのが、「どこへ行ってもスワヒリ語だね。でも英語は自分の国に比べると通じないね。」これは偶然ではなく、海岸地域で使われていたスワヒリ語を、国語の教師であった初代大統領ニエレレが国を統一するにあたり、政策としてスワヒリ語化を図った結果だそうです。同じ国の人たちが同じ言葉を喋れる、日本では全く当たり前のことが、すごく意味のあることですし、この国の大きな財産であると言っても過言ではないと考えます。日本においても、言葉の問題「喋れる英語教育」と「しっかりとした日本語の教育」という背反するような問題が取り上げられて久しいですが、何かこの国の問題と重なるところがあるようにも思えます。

生徒の英語力

さて、英語での教育をある意味勝ち抜いてきた、私が教えていた A-level 校の生徒は、基本的に、英語の能力については問題無いということになっています。生徒からすると英語の流暢さがそのまま教師の教科指導の力量の大きな判断基準になっているのも事実です。それには、さして異論は無いのですが、自分が若干英語について余裕が出てきたころから、実際の生徒の英語力について少々疑問を感じるようになってきました。例えば、授業中彼らからの質問を受け、私自身が質問を聞き取れないことがありました。その時は違う生徒に彼の質問が理解できるかと質問するようにしていました。その答えが NO のことが結構あるのです。そのやり取りに多くの時間を割かれることもありましたが、良いコミュニケーションの場と思って、辛抱強くやっていました。

また練習問題を解法するにあたり、私が常々生徒に「問題を正確に理解して、まずは問題の状況の判断を的確に行うこと」と言っていました。問題の状況を尋ねるとき、一つであるはずの問題の理解が、幾多も出てきたことに驚きました。解法を行う以前であることは言うまでもありません。下に問題と生徒の状況認識の例を紹介します。この問題は単にボールを投げるという運動的もしくは物理的な難しさは全く無いことを考えると、これは彼らの英語力の不十分さが大きな原因と言えらると思います。

[問題 投射運動]

A ball is thrown upward with initial velocity $V_0=15\text{m/s}$ at angle of 30° with the horizontal the thrower stands near the top of a long hill which slopes down ward at an angle of 20° . When does the ball strike the slope?

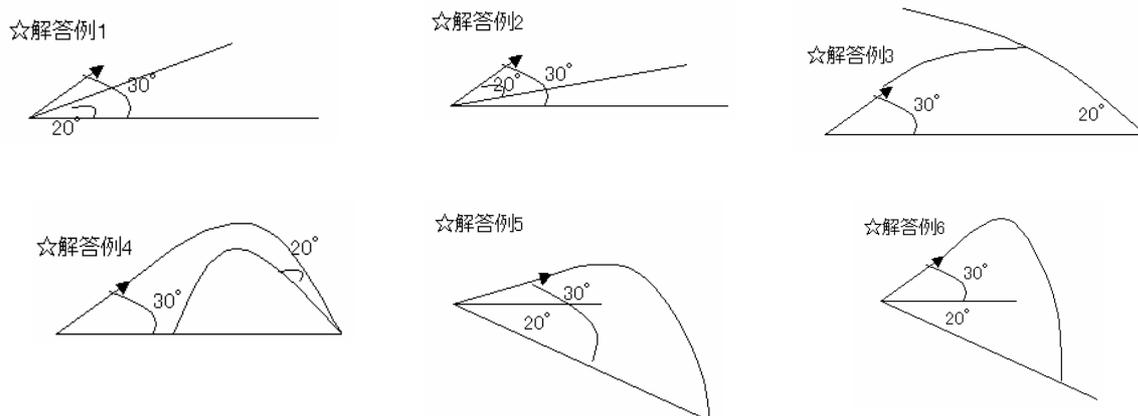


図1 投射問題の状況解答例

(4) 他の教師隊員たちとともに
タンザニア教育研究会での活動

タンザニアでの隊員派遣の実績としては、約30年にわたり、1000人の隊員が派遣されてきました。現在でも約70人の隊員が広いタンザニア全土に散らばり活動を行っています。近年は、教室型と呼ばれる学校派遣隊員が半数以上を占め、そのなかでも、理数科教員が30名を超え、断トツの派遣職種となっています。そんな状況において、主に学校派遣隊員が自主活動として組織しているのが、タンザニア教育研究会です。年2回、お互いの経験をもとに、情報交換を行ったり、研修会を開催し、各自のティーチングスキルの向上や、タンザニア人教師やまたアメリカの同職種ボランティアとの意見交換を行っています。私自身は現職の教員として参加ですが、赴任当初は、この国の学校の状態や体制、教科の教授内容、進度、国家試験の情報等、活動を行う上で知りたい情報は山ほどあり、非常にスムーズに各学校での活動を始められることが出来ました。ただ、隊員というのは2年間限定で、また年間3隊次の入れ替えがあり、何かを継続していくというのは、非常に労力を費やすことでもあります。

奨学金事業

タンザニア教育研究会のもう一つの大きな活動として、タンザニアの生徒に対して奨学金の給付を行っています。タンザニアには勉強熱心で、成績優秀であるにもかかわらず、経済的理由により、学業の継続が困難な生徒がたくさんいます。実際に彼らの長期休暇は次学期の学資作りに追われているようで、遅れて学校に戻ってくる生徒に聞くと、学資を作るために、仕事をしていたという答えが返ってきます。学校で働くどの隊員にも、その様な状況にある生徒たちをなんとかサポートしてあげたいとの思いが強くあり、10年ほど前に、有志が集まり、成績が優秀で、経済的理由により就学の継続が困難な生徒への資金援助を目的とし、この事業を設立しました。以来、合計150名を超える生徒の就学の継続をサポートしてきました。

私も、活動中3名の生徒を推薦しました。応募資料の中には、家族構成や収入を記入する欄があるのですが、3人とも無収入と書いてきました。もちろん全く収入が無い訳ではないのですが、農家で生計を立てている家庭（タンザニアではほとんどが農家）では特に、決まった現金収入が無いのが、生徒との会話からも良く分かりました。また将来の夢という作文も書いてもらうのですが、一人は医者になり、地方に地域診療所を作り、出来れば無料で診療活動をしたいと書いてありました。この国の大きな死因のマラリアやエイズの根絶に尽力したいということでした。選考を通して、学校以外での生徒の置かれている現状をより深く理解できたのを記憶しています。

私自身、この事業運営に直接関わりました。決して大きく展開していけるものではありませんが、「自分達の目の前にいるタンザニアの子たちの就学をサポートして行きたい!」、「彼らの可能性という木を枯らすわけにはいかない!」という先輩諸氏の初心を大切にし、受け継がれている活動です。

3 家族を残して

(1) 協力隊は単身が条件

協力隊は単身が条件であり、派遣中の帰国は許可されていません。ただし家族を持つ隊員には、派遣中2週間家族の呼寄せ制度があります。私は妻と3人の子供を日本に残しての参加でしたので、2003年8月に、家族がタンザニアを訪問しました。その時にまた違ったタンザニアが見えました。

(2) 子供には国境の壁はない?

20時間以上、初めての飛行機に乗りやってきた子供達は、さぞかし疲れていることだろうと心配していましたが、全くその必要はなく、着いたその日から、近所の子供達と一緒に遊びまわっていました。もちろん我が子達は日本語で、近所の子達はスワヒリ語で。家族が帰ってからも、近所の子供達は、「とも、まー」と子供達の名前を呼んで、「また来ないのか?」という質問が1ヶ月くらい続きました。



写真3 子供たち1



写真4 子供たち2

(3) 脱臼事件

滞在中、とにかく子供達の病気や怪我を心配していましたが、なんとか何事もなく、最終日を向かえ、いつものように近所の子供達と最後まで遊んでいましたが、突然、4歳の一番下の子が、泣いて家のなかに入ってきました。見ると肘を脱臼したようで、どうしようとアタフタしていると、見送りに来てくれた同僚が、いろいろ助言をくれました。助言とはこんなものでした。まずは、落ち着かせなさい。もし、鎮痛剤があれば飲ませよ。それから、落ち着いてきたら、体位を変えて寝かせました。それから、待つこと10分くらい、子供の方も泣き止んでおり、また座らすと脱臼の方は、元通り入っていました。これを通して、私達はすぐに病院、病院と言ってアタフタしましたが、救急車や病院が十分に整備されていないこの国では、自分達で苦しんでいる子供達になんらかの処置をしなければならなくて、その一番は落ち着かせこと、痛みを和らげてやることであり、逆に言うとそれしか出来ないのがこの国の実情なのだろうと思いました。

ここに来たときに家族を置いてきたという、何でそんなことをするのか。自分には信じられない、と幾人からの同僚から言われたことを思い出します。それが私達のルールなんだ、なんて答えても何の解決にもなりません。家族を通してのタンザニアの人達との関わりで、また違ったものを感じられたような気がしました。



写真5 子供たち3

帰国の時、「またタンザニアに来るか？」という質問を多く受けましたが、いつも決まって、こう答えていました。「自分は難しいと思うよ。ただ3人の子供のうち1人くらいは戻ってくるかもしれないから、その時はよろしく。」

4 最後に

(1) アフリカでの生活を通して

このアフリカでの体験を通して、よく何が日本と違いましたか？と聞かれますが、違った点よりも同じ点を発見するほうが、多かったように思います。特に私が勤務した学校のシステムなどはたくさん共通点がありました。若干時間的なルーズさやズレはありますが、人の親切さ、親近感日本が忘れてしまったものなのかなあと思ったりもしました。



写真6 卒業式にてソーラン節披露

また協力隊に自ら志願してアフリカに行った私でさえ、アフリカに対する偏見がありました。初めてアフリカ大陸に降り立ったとき、空気が同じ！と安心した思い出があります。本当に当たり前のことですが、それを自分が実感・体験するまでは、自分のものになっていないということです。「百聞は一見にしかず」という諺がありますが、これだけテレビやインターネットが普及し、映像としてどこの場所でもみることができますが、それはある抽出されたワンカットであり、それからすべてを知ることは出来ないということを強く思います。そういう観点で言えば、これからは、「百見は一実感・一体験にしかず」の方が適当な気がします。

最後になりますが、次の時代を担う生徒達の、「学びたい」、「何かを吸収したい」という純粋で強い気持ちで、タンザニアや他のアフリカの国々の多くの困難な問題を解決し、発展の原動力となることを期待してやみません。

(2) 帰国後の日本の生徒たちへ 「日本は本当にいい国ですか？」

帰国後、日本の生徒への報告会を幾度が行いました。その中で一番理解してもらいたいことは、「タンザニアという国があることとそこでたくましく生きる人たちがいること」と、「日本は本当にいい国なのだろうか？」ということです。私が見た開発途上国タンザニアの現状は映像や数字を交え報告しますが、それに対峙する日本はどうかは、生徒自信の体験を通して考えていけることだと思います。その答えを探すために、自分自身で動いてくれるきっかけになってくれればと思っています。最後に現在の勤務校で行った報告会よりある生徒の感想文を紹介したいと思います。

[参考]

日本は幸せですか？と言われて、私は、話を聞くまで、日本が一番幸せだろうと思っていました。アフリカのタンザニアの人達は、きれいな水や満足なご飯、他にもいっぱい私達が普通にできていることが出来ません。それを聞いて、やっぱり日本人でよかったと思いました。タンザニアに住む人達は、小学生・中学生・高校と上がるにつれて、学校に行くことの出来る人数が減っていき、しかも、卒業をしてもそれがどんなに頭がいい人でも就職が出来ないと聞いたとき、私は、じゃあどうして学校に行くの？と思ってしまいました。でも、学校に行っている生徒は、授業が終っても夜にまた勉強している映像を観て、自分たちでどうにかして自分の道を切り開こうとしていることに、すごく胸を打たれました。その映像を観終えて、私は最初の質問に、日本で生まれて幸せだけど、でも生まれ変わったとしたら、アフリカのタンザニアでいいかなって思えました。タンザニアの人達は貧しくても、十分食事を取ることができなくても、自分達はそれでも幸せだというあの笑顔が目に焼きついています。ハクナ マタタ(問題ないよ)(本校2年生女子、2004)

参考文献

・尼崎産業高校人権教育講座 「タンザニアの大地より」の感想文 2004年7月 2年生女子



現地での主な活動

- ・高校生に物理を週20時間程度担当
日本の授業は何語を使うの？
究極の予備校授業
テキスト・問題集
- ・課外活動
ラグビー
日本語教室(ソーラン節披露、文通)
- ・タンザニア教育研究会活動
奨学金事業

• [問題 投射運動]

• A ball is thrown upward with initial velocity $V_0=15\text{m/s}$ at angle of 30° with the horizontal the thrower stands near the top of a long hill which slopes down ward at an angle of 20° . When does the ball strike the slope.

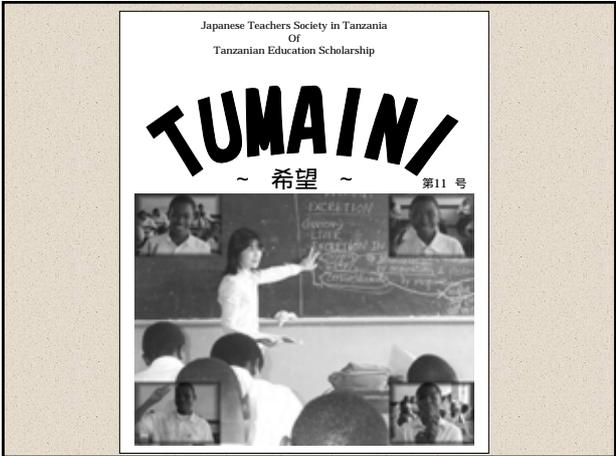
Past Examination 2002.Paper2

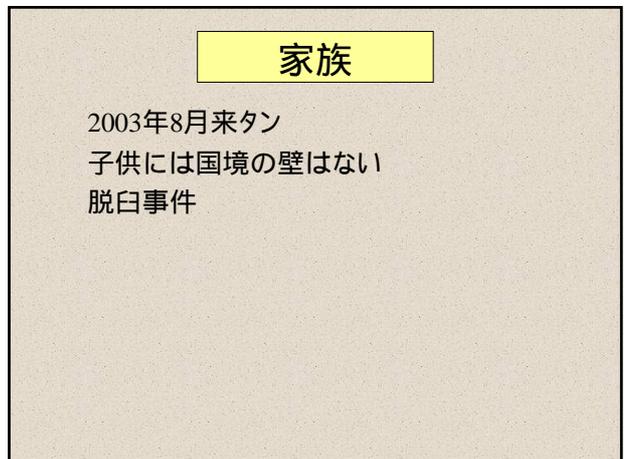
(d)(iii)A radar speed trap is placed 15m from the side of a road, its beam making an angle of 15° with the road. If the transmitting aerial has a horizontal width of 20cm and the wavelength used is 3cm, over what distance along the road can vehicles be detected?

Single-slit diffraction $d\sin\theta = m\lambda$

(Answer)diffraction angle
 $\theta = \sin^{-1}(m\lambda/d) = \sin^{-1}(0.03/0.2) = 8.63^\circ$

- $ox = 15/\tan(15+8.63) = 34.3\text{m}$
- $oy = 15/\tan(15-8.64) = 134.4\text{m}$
- $xy = oy - ox = 134.4 - 34.3 = 100\text{m}$





協力隊 らしさ？

出世魚？

隊員候補生 派遣隊員

新隊員 先輩隊員

帰国隊員 隊員OB/OG ???



最後に

- 日本とどこが違いますか？
- 絶対はない。
- 「一見は百聞にしかず」 より
「一感・一体験は百見にしかず」
- ぜひアフリカに行ってみてください。
(Karibu Tanzania na Africa)

Asante Sana









発表ではDV(デジタルビデオ)も用いられました。この3ページ分の資料は、DV画面をもとにスライド風に編集しなおしたものです。

タンザニアでの教員経験を通して

～ 青年海外協力隊の活動より～

平成 14 年度 1 次隊 (H14 年 7 月 ～ H16 年 3 月)
アフリカ・タンザニア国 ダルエスサラーム
ブグ中等学校 理数科教師

現地での主な活動

日本の高校程度の生徒に週 20 時間、物理を教授 V T R
このレベルでは 3 教科選択のコース制を行う
(クラス例 PCB・PCM・EGM・HGL・HKF 等)
国家試験は記述式の問題が多い。試験科目に実験あり
大学教養レベル(流体力学・物性学等)の内容あり

? 日本の授業は何語を使うの?

私と彼らの英語の問題 資料 P 3 (生徒の感想は)・資料 P 4 (生徒の英語力)
タンザニア教師と日本人教師、日本人教師は必要? 資料 P 3 (生徒の感想は)
テキスト・問題集作成 資料 P 3 (生徒の感想は)

担任

現地語で通知簿の記入と送付

放課後の活動 V T R

ラグビー

日本語教室(ソーラン節披露、文通)

タンザニア教育研究会活動

奨学金事業(8 年間で 150 名以上の生徒に給付) 資料 P 5 ~ 6

他の国のボランティアやタンザニア教師との研修会の実施
(模擬授業に対する評価と討論、生徒への授業アンケート等)

家族を残して

2003 年 8 月に来タン

子供には国境の壁はない

脱臼事件 資料 P 7 (家族来タン!)

JOCVの可能性と限界が、らしさ？

出世魚？

隊員候補生 派遣隊員 新隊員 先輩隊員 帰国隊員 隊員OB・OG

登山のような・・・

JOCVの難しさについて 2003年11月13日現地にて

登山の景色のように、今から登ろうとする人と、今まさに登頂しようとする人では、見える景色も全く違出し、抱えている問題も全く違う。ただ、だいたいにして、見える景色も、抱える問題も同じようなものである。すなわち、それぞれが、継続的に後進の隊員に何か残していけば、自然と後進の登山の道のりも、到達点も違ったものになるはずである。

最後に

Aim at Excellence

資料P7 (最後に)

生徒に対する報告会では

日本の生徒たちに 「日本は本当にいい国ですか」

本校人権教育講座 「タンザニアの大地より」の感想文より

～2年生女子～

日本は幸せですか？と言われて、私は、話を聞くまで、日本が一番幸せだろうと思っていました。アフリカのタンザニアの人達は、きれいな水や満足なご飯、他にもいっぱい私達が普通にしてきていることが出来ません。それを聞いて、やっぱり日本人でよかったと思いました。タンザニアに住む人達は、小学生・中学生・高校と上がるにつれて、学校に行くことの出来る人数が減っていき、しかも、卒業をしてもそれがどんなに頭がいい人でも就職が出来ないと聞いたとき、私は、じゃあどうして学校に行くの？と思ってしまいました。でも、学校に行っている生徒は、授業が終っても夜にまた勉強している映像を観て、自分たちでどうにかして自分の道を切り開こうとしていることに、すごく胸を打たれました。その映像を観終えて、私は最初の質問に、日本で生まれて幸せだけど、でも生まれ変わったとしたら、アフリカのタンザニアでいいかなって思えました。タンザニアの人達は貧しくて、十分食事を取ることができなくても、自分達はそれでも幸せだというあの笑顔が目に焼きついています。ハクナ マタタ(問題ないよ)

まとめは

日本とどこが違いますか？

絶対はない。

「一見は百聞にしかず」より「一感・一体験は百見にしかず」

ぜひアフリカに行ってみてください。 Karibu Tanzania na Africa

(生徒の感想は)

最後の授業の時に行った生徒へのアンケートの集計結果を紹介します。以前にも私の英語の能力についての報告は行いましたが、今回は主に日本人教師は生徒達にどう映っていたかをアンケートしてみました。特にコメントは付けませんが、前述したテキストに対する評価が完璧に近いのは非常に嬉しい限りです。

(Q1)Could you understand my English speaking?

all understanding [50%] almost[34%] sometimes[16%] seldom[0] never[0]

(Q2)Do you think any difference between my lesson and Tanzanian teacher s one?

Yes[51%] sometimes[34%] No[15%]

If you answer "yes", please write any different point.

(Note: T.T. means Tanzanian Teacher and J.T. means Japanese Teacher)

/Your explanation bases on how to apply physics in the for example technology but Tanzanian teachers teaches how to answer questions of NECTA and tricks to pass physics and not how is it able to the normal life.

/Language and you make things more summary.

/J.T. are more advanced on teaching especially on how to make the student to understand more.

/Your lesson you use more practical examples and you want the student to set ideas how to answer the questions.

/T.T. because they are Tanzanian. They have enough experience about Tanzania teaching example, they know much to concentrated during teaching but you, you are just directed by syllabus and your experience is not the same as them but you tried a level best.

/You have the spirit of being a teacher like some few T.T.

(Q3)Did my text book help your study?

Yes[98%] sometimes[2%] never[0%]

(Q4)Did Calculations help your study?

Yes[98%] sometimes[2%] never[0%]

(Q5)If there are enough teachers in Tanzania, what do you think about Japanese teacher?

Need[83%] Not to need[17%]

Please write your comment about this question, if you have.

[Need] /We learn their attitudes, ideas and life experiences which are important to us.

/This is to bring relationship to Tanzanian and Japanese and also help to learn more things concern Japanese.

/Giving us a different ideal from Japanese and it is important for developing man.

/Presence of J.T has greater influence since we share ideas and ideology, this is more important in improving students ability.

/We need J.T. but not many. The T.T. would satisfy our aims. We need some teachers from Japan because it is better to change the teachers from various places because they have different techniques of teaching.

[Not to need]

/T.T knows how education is difficult in our county. But J.T. does not aware of this, they make things easy.

/T.T will fail to get employment since there are J.T. But if T.T have got no enough teacher we invite many J.T. to come and teach our students.

(Q6)Have you known something about Japan and Japanese though my working period?

a lot of[54%] something[42%] nothing[4%]

Please write something what you have known about this, if you have.

/Sense of responsibility, keeping time, being charming to student if I will be a teacher.

/I have known that keep time and usually sacrifice for the benefit of others.

/They are hard worker and kindly.

/Culture and language and Hiroshima destruction etc.

/To keep the promise and to take care and to follow timetable and to fill full the mission at the time required.

(英語と母国語)

以前にも書きましたが、タンザニア国における中等教育は概ね英語で行われることになっています。日本で言うと中学校へ入って英語の勉強が始まり、それと同時に他の教科の勉強を英語で行うというものです。特に理数科の教科はそれ自体が難解なものであるにも関わらず、その上、生徒達には英語の負担もかかり、2年生の終わりにある国家試験でも特に数学の不合格者数が際立って多く、問題となっています。このことを教員や行政の担当官と話したのですが、やはり一番の問題は、「スワヒリ語の教材がないこと」、「英語は公用語で国際語である」というのが決まった答えです。1番目の問題は大学を始め、その気になればそんな難しいことでは無いという事を返答するのですが、なかなかかみ合った議論にはなりません。私がなぜこの議論がかみ合わないかを考えるとき、この国ではまだまだ中等教育はある一部の優秀な子供達のためのものであって、等しく機会が与えられ、この国の底辺の底上げを担うという考えかたでは無いのだろうと思います。世界からのサポートもあり、2年ほど前から小学校が無償、全入となりましたが、その子供達が数年後中学校に入学を希望するとき、これらの問題の答えが迫られると思われます。また英語は国際語という意見は、全く異論の無いところです。ただこの国のスワヒリ語は、英語を話すことなく2年間過ごす隊員もいる程、国の隅々まで行渡っています。これについては日本では当たり前のことなのですが、特にアフリカにおいては、もともと部族語があり、そこに英語、フランス語やポルトガル語等の占領言語が公用語として使われているケースが多くあります。他のスワヒリ語を使うケニア、ウガンダにおいても事情は違い、ケニアは部族間の対立の根が深く、今なお、英語、スワヒリ語、そしてそれぞれの部族語が混在しているとのこと。周りの国々から訪れる隊員達が言語について口を揃えて言うのが、「どこへ行ってもスワヒリ語だね。でも英語は自分の国に比べると通じないね。」これは偶然ではなく、海岸地域で使われていたスワヒリ語を初代大統領ニエレレが国を統一するにあたり、政策としてタンザニアのスワヒリ語化を図った結果だそうです。私には、これはこの国の大きな財産であるように思います。同じ国の人たちが同じ言葉を喋れる。日本では全く当たり前のことが、すごく意味のあることだということを感じさせられます。日本においても、言葉の問題「喋れる英語教育」と「しっかりとした日本語の教育」という背反するような問題が取り上げられて久しいですが、何かこの国の問題と重なるところがあるようにも思えます。また日本に帰ってからゆっくり考えてみたいと思っています。

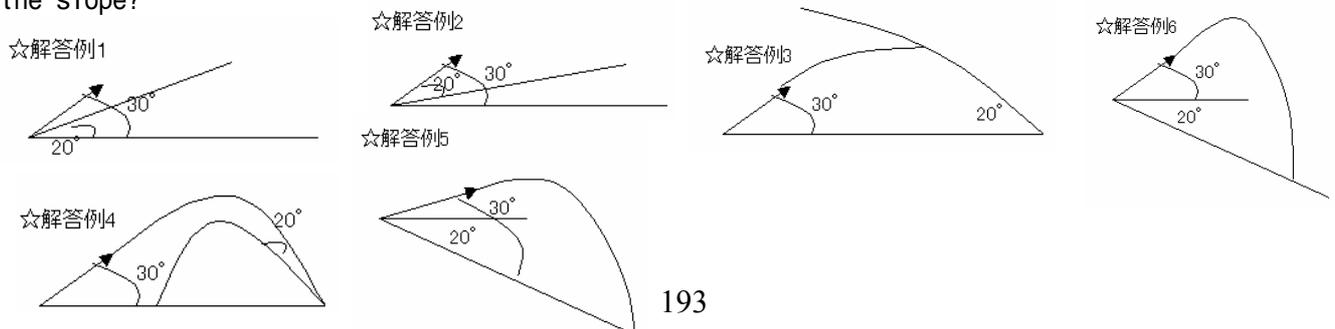
(生徒の英語力)

さて、英語での教育をある意味勝ち抜いてきた、私が教えているアドバンスレベルの生徒においては、基本的に、英語の能力については問題無いということになっています。逆に、過去にレポートした通り、生徒からすると英語の流暢さがそのまま教師の教科指導の力量の大きな判断基準になっているのも事実です。それには、さして異論は無いのですが、自分が若干英語について余裕が出てきたのか、実際の生徒の英語力について最近少々疑問を感じるようになってきました。例えば、授業中彼らからの質問を受け、私自身が質問を聞き取れないことがあります。その時は違う生徒に彼の質問が理解できるかと質問するようにしています。その答えがNOのことが結構あるのです。そのやり取りに多くの時間を割かれることもあります。良いコミュニケーションの場と思って、辛抱強くやっています。

また練習問題を解法するにあたり、私が常々生徒に「問題を正確に理解して、まずは問題の状況の判断を的確に行うこと」と言っています。これを徹底させるために、実際の解法より状況の理解に多くの時間を割く場合もあります。その問題の状況を尋ねるとき、一つであるはずの問題の理解が、幾多も出てきたことに驚きました。解法を行う以前であることは言うまでもありません。下に問題と生徒の状況認識の例を紹介します。この問題は単にボールを投げるという運動的もしくは物理的な難しさは全く無いことを考えると、これは彼らの英語力の不十分さが大きな原因と言えると思います。

[問題 投射運動]

A ball is thrown upward with initial velocity $V_0=15\text{m/s}$ at angle of 30° with the horizontal the thrower stands near the top of a long hill which slopes down ward at an angle of 20° . When does the ball strike the slope?



(唯一の成果?)

タンザニアにおけるアドバンスレベルには教科書というものはありません。シラバス(日本の指導要領)に記載されている参考テキスト等を参考にしながら、学習を進めていくというのが生徒の標準的なやり方です。勿論テキストを購入できる生徒にとっては、そのようにできますし、家庭教師を雇える生徒達はそれを解説してくれる人までいる訳ですから、それでも問題はないと思います。しかし、私が教えるクラスでは、約8割の生徒はテキストと呼べるものを持っていません。またテキストを持っていて、それを参考に学習を進めている生徒でも、勿論その参考書はシラバス通りの順番には並んでいませんし、すべてを網羅している訳でもありませんので、個人的に学習するには非常に困難を要します。私自身、自分のレッスンノートを作成するに当たり、5冊の参考書を購入し、一番分り易いものはどれかを調べながら、シラバスに沿って作成して行きました。ある程度内容を理解している私ですら、骨の折れる作業なのですから、全く内容を理解していない生徒にとって、それを自ら行うことは困難を極めることとなります。テキスト作りを進めた大きな理由は上記したことですが、もう一つは、私が赴任したときのように、先生が全く居ないとき、自習用として使って貰えたらと思いました。もちろんレッスンノートの延長線的な位置づけですが、生徒達の学習をサポートするだろうという以下の工夫をしました。6部しか印刷できませんでしたが、先日学校の方へ引き渡し、教科主任からは感謝して頂けたので、唯一の成果になったかなあと感じたりもしています。

以下にこのテキストの作成にあたり工夫した点を挙げます。

- (1) シラバスをより意識しながらできるように、
各トピックの始めにシラバスの目標を記載した。
- (2) 項目毎に出来るだけ Exercise を解答付きで記載した。
- (3) トピック毎に 10 問程度の練習問題を記載した。
- (4) トピック毎に国家試験の問題を示し、解答例を記載した。
- (5) トピック毎に過去 6 年間の国家試験を分類し、
全部を記載した。
- (6) すべての練習問題、国家試験に詳細な解答を記載した。

奨学金事業 機関誌 「TUMAINI ~希望~」第 11 号より

2003年度(上半期)奨学生紹介

今回、10校から選出された24名の奨学生を紹介いたします。本年7月より奨学金を受けるメンバーです。

Mr. Mussa Ryoba (Musoma technical Secondary School)

推薦者：佐藤 由理隊員(13-1)

Male 19才 将来の夢：エンジニア

推薦者から	彼の家族は農業で生計をたてており、父母姉が主な働き手です。家族の総収入は、年間 55,000Tsh です。この収入では彼を含めた 4 人の子供を学校に行かせることは難しく、2 人の叔父が、それぞれの家族を持ちながらも、学費の援助をしています。とはいえ全学費をカバーできるわけではないので学校の休み期間に、彼はいろいろな仕事をしながら学費の足しにしています。授業態度、生活態度、成績ともに、とても好感がもてる生徒で、学費の心配なしに Form6 の勉強に集中させてあげたいです。
選考方法	(1)朝礼で全校生徒にアナウンス (Division 以上、クラス担任の推薦が必要と強調) (2)集まった生徒に願書を配布、数度の下書きののち受理 (3)成績証明の記入とクラス担任の推薦の確認(成績の確認) (4)教頭、アカデミックミストレス、生活指導主任、クラス担任を交えて面接 (5)校長の承認

Mr. Edward Kimaro (Minaki Secondary School)

推薦者：中和 悠隊員(14-2)

Male 22才 将来の夢：法律家

推薦者から	1992年に母親を病気で亡くし、父親が物心付く以前より現在に至るまで失踪中で、彼自身も尚、自分の父親が誰であるのかわかりません。実質孤児であり、年間収入も無く、本人 Form3 在学中、学費が支払えず勉強を中断しかけた経験もあります。Form5の学費については一部を休暇中に自ら稼ぎ、残りは地元の人々の寄付によって支払ってきたようですが、来期 Form6 からはスポンサーが居なくなり、支払いが非常に困難になります。しかしこの状況下、当生徒は非常に優秀な成績を収めており、更には、全校の Academic Prefect、コンピュータクラブの Chairman まで務め、生徒達からの人望も非常に厚い人間であります。しかし本人は現状に満足しておらず更なる成績向上を望んでいて、この向上心は経済面と共に大きな推薦理由の一つです。将来は、自分のように経済的理由で学業に支障をきたしている生徒達に奨学金を支給してあげたいという意思を持っており、現在の彼の苦しみを理解することができます。上記の理由から当生徒を奨学生として推薦します。
選考方法	前記 Alex Simon 君と同じ

Mr. Maclean Mwamlangala (Minaki Secondary School)

推薦者：中和 悠隊員(14-2)

Male 21才 将来の夢：教師

推薦者から	1999年に父親を、昨年 2002年に母親を病気で亡くし、現在の家族構成は2人の妹との3人家族、孤児であります。更に、現在本人は入寮しているため、実家に幼い妹2人を残して来ている状況で、現在2人は近所の支えで何とか生活していますが、今後は本人が家計を支えていくこととなります。当然家族の収入は無く、これまで本人は自分の学費を稼ぐために Term 休みの度にメイズを売り歩いていました。このようなことから学費確保の為、休み明けに学校に戻るのが遅れることもしばしばあり、勉学に大きな支障をきたしています。更には、不幸にも今期の Term 休みには雨が降らなかった為、メイズを売ることが出来ず来期の学費獲得が非常に困難な状況であるのです。現在の学業成績は優れているとは言えませんが、この原因として、両親の死、そして深刻な経済状況にあるのは間違えありません。卒業後は経済を学び、国を立て直すべく教員を志しており、将来設計も明確です。上記の理由から当生徒を奨学生として推薦します。
選考方法	前記 Alex Simon 君と同じ

"Pole Pole." from TANZANIA No.4 29th/July/2003 より

<奨学金事業>

タン教研のもう一つの大きな活動として、タンザニアの生徒に対して奨学金の給付を行っています。タンザニアには勉強熱心で、成績優秀であるにもかかわらず、経済的理由により、学業の継続が困難な生徒がたくさんいます。実際に彼らの長期休暇は次学期の学資作りに追われているようで、遅れて学校に戻ってくる生徒に聞くと、学資を作るために、仕事をしていたという答えが返ってきます。学校で働くどの隊員にも、そのような状況にある生徒たちをなんとかサポートしてあげたいとの思いが強くあり、今から8年前に、有志が集まり、成績が優秀で、経済的理由により就学の継続が困難な生徒への資金援助を目的とし、この事業を設立しました。以来、8年間で合計150名を超える生徒の就学の継続をサポートしてきました。

今年度、私もこの事業のお世話をさせて頂いてますが、実際の事業継続には大変な労力が必要となります。まず何より資金面においては、隊員だけでは到底カバーできず、タンザニア在住の日本人の方々も主旨に賛同していただき、毎年ご協力をいただいています。また、帰国された隊員の方々が日本でも紹介して頂き、幾分かサポートをして頂いています。決して大きく展開していけるものではありませんが、「自分達の目の前にいるタンザニアの子たちの就学をサポートして行きたい!」「彼らの可能性という木を枯らすわけにはいかない!」という先輩諸氏の初心を大切に、隊員活動の一つとしてしっかり継続して行きたいと思っています。

(家族来タン！)

最後に個人的な報告で恐縮ですが、この8月に、妻と子供3人がタンザニアを訪問したときのことを少し書きたいと思います。

まず、20時間以上、初めての飛行機に乗りやってきた子供達は、さぞかし疲れていることだろうと心配していましたが、全くその必要はなく、着いたその日から、近所の子供達と一緒に遊びまわっていました。もちろん我が子達は日本語で、近所の子供達はスワヒリ語で。家族が帰ってからも、近所の子供達は、「とも、まー」と子供達の名前を呼んで、「また来ないのか？」という質問が1ヶ月くらい続きました。

滞在中、とにかく子供達の病気や怪我を心配していましたが、なんとか何事もなく、最終日を向かえ、いつものように近所の子供達と最後まで遊んでいましたが、突然、4歳の一番下の子が、泣いて家のなかに入ってきました。見ると肘を脱臼したようで、どうしようとアタフタしていると、見送りに来てくれた同僚が、いろいろ助言をくれました。助言とはこんなものでした。まずは、落ち着かせなさい。もし、鎮痛剤があれば飲ませよ。それから、落ち着いてきたら、体位を変えて寝かせました。それから、待つこと10分くらい、子供の方も泣き止んでおり、また座らすと脱臼の方は、元通り入っていました。これを通して、私達はすぐに病院、病院と言ってアタフタしましたが、救急車や病院が十分に整備されていないこの国では、自分達で苦しめる子供達になんらかの処置をしなければならなくて、その一番は落ち着かせこと、痛みを和らげてやることであり、逆に言うとそれしか出来ないのがこの国の実情なのだろうと思いました。

ここに来たときに家族を置いてきたらという、何でそんなことをするのか。自分には信じられない、と幾人からの同僚から言われたことを思い出します。それが私達のルールなんだ、なんて答えても何の解決にもなりません。しかし、今回家族を通してのタンザニアの人達との関わりで、また違ったものを感じられたような気がします。まあ何より私達、家族にとっては日本では味わえない中身の濃い、2週間になったことは言うまでもないところです。

"Pole Pole & Asante sana" from TANZANIA No. 7 13/March/2004 より

= スワヒリ語でポチポチとどうもありがたうの意味です。

(最後に)

最後にここの学校 T シャツの背面に書かれている言葉 [aim at excellence] について、以下のように生徒に問いかけて結びとしました。

「Go on aiming at excellence through your life and sometimes consider what that's meaning: "excellence".
Off course, I will try to do so.」

その後、校長が私のこの挨拶を受けて、生徒達に、勉強にしても、生活にしても、すべて近道は無い。一つ一つの積み上げであり、それが成果となるのである。と付け加えてくれた事に、気持ちを共有できた喜びと深い感動を覚えました。

この2年弱の活動を通して、どこに住もうが、なに人であろうが、肌の色がどうであれ、生活の仕方が異なっても、「基本的に人はみんな同じなんだ」という当たり前のことを、終始感じていました。この活動を通して、就任の日に生徒に紹介した、「ONE FOR ALL , ALL FOR ONE」の言葉の意味に大きな広がり可能性を感じ、今後世界がそうなることを願ってやみません。ありがとうございました。

アサンテ・サーナ。

Reported by Masaaki TANI (E-mail:m6957tani@hotmail.com)